

ヨブ記の御言葉と賛美による夏期伝道礼拝

7月4日(日)午前10時半～

司式 小澤淳一牧師

前奏	前奏曲ハ長調 BWV570 J.S.バッハ	大平 健介
招詞	詩編 145 編 3-4 節、8-9 節 大いなる主、限りなく賛美される主、大きな御業は究めることもできません。人々が、代々に御業をほめたたえ、力強い御業を告げ知らせますように。主は恵みに富み、憐れみ深く、忍耐強く、慈しみに満ちておられます。主はすべてのものに恵みを与え、造られたすべてのものを憐れんでくださいます。	
頌栄	539	— 同
主の祈り		//
讚美歌	85 主のまことはありその岩	//
教会の祈り		五十嵐成見牧師
聖書	ヨブ記1章1-3、6-22節	五十嵐成見牧師
奉奏	ただ愛する神の摂理にまかす者 BWV691 J.S.バッハ ただ愛する神の摂理にまかす者 いかなる時も神に望みを抱く者 神はその者をいとくすしく守りたもう 十字架と悲しみにありても 神にいと高き方に信頼する者 その人は砂の上に家を建てたものにあらず	
聖書	ヨブ記2章1-10節	小澤淳一牧師
奉奏	主よ、われ汝に望みをいだけり BWV640 J.S.バッハ 主よ 御もとに身を寄せます とこしえに取心に落とすことなく 恵みの御業によってわたしを助けてください あなたの耳をわたしに傾け 急いでわたしを救い出してください 砦の岩 城塞となってお救いください	
聖書	ヨブ記2章11-13、3章1-5a、11-13節	小澤淳一牧師
奉唱	わがものすべては失せはつとも 讚美歌 305、1-3	青木 洋也
聖書	ヨブ記38章1-12節、42章1-10節	藤井清邦牧師
奉唱	わがものすべては失せはつとも 讚美歌 305、4-5	
説教	「主の僕、ヨブ」	藤井清邦牧師
信仰告白	—使徒信条—	— 同
讚美歌	338 主よおわりまで	//
奉献ととりなしの祈り		
讚詠	545	— 同
祝福		
報告		
後奏	主イエス・キリストよ、我らを顧みたまえ BWV 709 J.S.バッハ	

ヨブ記の御言葉と賛美による夏期伝道礼拝

◆ヨブ記一章一〜三、六〜二二節

二 ヨブの地にヨブという人がいた。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていた。七人の息子と三人の娘を持ち、羊七千匹、らくだ三千頭、牛五百くびき、雌ろば五百頭の財産があり、使用人も非常に多かった。彼は東の国一番の富豪であった。

ある日、主の前に神の使いたちが集まり、サタンも来た。「主はサタンに言われた。「お前はどこから来た。」地上を巡回しておりました。ほうぼうを歩きまわっていました」とサタンは答えた。∞ 主はサタンに言われた。「お前はわたしの僕ヨブに気づいたか。地上に彼ほどの者はいまい。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きています。」∞ サタンは答えた。「ヨブが、利益もないのに神を敬うでしょうか。二〇 あなたは彼とその一族、全財産を守っておられるではありませんか。彼の手の業をすべて祝福なさいます。お陰で、彼の家畜はその地に溢れるほどです。二一 ひとつこの辺で、御手を伸ばして彼の財産に触れてごらんない。面と向かってあなたを呪うにちがいない。二二 主はサタンに言われた。「それでは、彼のものを一切、お前のいいようにしてみ

るがよい。ただし彼には、手を出すな。」サタンは主のもとから出て行った。

二三 ヨブの息子、娘が、長兄の家で宴会を開いていた日のことである。一四-一五 ヨブのもとに、一人の召使いが報告に来た。「御報告いたしました。わたしの牛が、牛に畑を耕させ、その傍らでろばに草を食べさせておりました。シエバ人が襲いかかり、略奪していききました。牧童たちは切り殺され、わたしひとりだけ逃げのびて参りました。」一六 彼が話し終らないうちに、また一人が来て言った。「御報告いたします。天から神の火が降って、羊も羊飼も焼け死んでしまいました。わたしひとりだけ逃げのびて参りました。」一七 彼が話し終らないうちに、また一人来て言った。「御報告いたします。カルデア人が三部隊に分かれてらくだの群れを襲い、奪っていききました。牧童たちは切り殺され、わたしひとりだけ逃げのびて参りました。」一八 彼が話し終らないうちに、更にもう一人来て言った。「御報告いたします。御長男のお宅で、御息、御息女の皆様が宴会を開いておられました。」一九 すると、荒野の方から大風が来て四方から吹きつけ、家は倒れ、若い方々は死んでしまわれました。わたしひとりだけ逃げのびて参りました。」

二〇 ヨブは立ち上がり、衣を裂き、髪をそり落とし、地にひれ伏して言った。二一 「わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与

え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ。」
二二 このような時にも、ヨブは神を非難することなく、罪を犯さなかった。

◆二章一〜一〇節

二二 またある日、主の前に神の使いたちが集まり、サタンも来て、主の前に進み出た。
二三 主はサタンに言われた。「お前はどこから来た。」地上を巡回しておりました。ほうぼうを歩きまわっていました」とサタンは答えた。∞ 主はサタンに言われた。「お前はわたしの僕ヨブに気づいたか。地上に彼ほどの者はいまい。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きています。お前は理由もなく、わたしを唆して彼を破滅させようとしたが、彼はどこまでも無垢だ。」∞ サタンは答えた。「皮には皮を、と申します。まして命のためには全財産を差し出すものです。∞ 手を伸ばして彼の骨と肉に触れてごらんない。面と向かってあなたを呪うにちがいない。二〇 主はサタンに言われた。「それでは、彼をお前のいいようにするがよい。ただし、命だけは奪うな。」∞ サタンは主の前から出て行った。サタンはヨブに手を下し、頭のとっぺんから足の裏までひどい皮膚病にかからせた。∞ ヨブは灰の中に座り、素焼きのかけらで体中をかきむしった。
二二 彼の妻は、「どこまでも無垢でいるのですか。神を呪って、死ぬ方がましでしょう」と言ったが、二三 ヨブは答えた。「お前まで愚かなことを

言うのか。わたしたちは、神から幸福をいただいたのだから、不幸もいただこうではないか。」このようになって、彼は唇をもつて罪を犯すことをしなかった。

◆三二章一〜三節、三三章一〜五a、一一〜三節

三二 さて、ヨブと親しいテマン人エリファズ、シユア人ビルダド、ナアマ人ツォファルの三人は、ヨブにふりかかった災難の一部始終を聞くと、見舞い慰めようと相談して、それぞれ国からやって来た。三二 遠くからヨブを見ると、それと見分けられないほどの姿になっていたので、嘆きの声をあげ、衣を裂き、天に向かって塵を振りまき、頭にかぶった。三三 彼らは七日七晩、ヨブと共に地面に座っていたが、その激しい苦痛を見ると、話しかけることもできなかつた。

三四 やがてヨブは口を開き、自分の生まれた日を呪って、三五 言った。三六 わたしの生まれた日は消えうせよ。男の子をみごもつたことを告げた夜も。三七 その日は闇となれ。神が上から顧みることなく、光もこれを輝かすな。三八 暗黒と死の闇がその目を贖って取り戻すがよい。密雲がその上に立ちこめ、昼の暗い影に脅かされよ。三九 …… 四〇 なぜ、わたしは母の胎にいるうちに死んでしまわなかつたのか。せめて、生まれてすぐに息絶えなかつたのか。四一 なぜ、膝があつてわたしを抱き、乳房があつて乳を

飲ませたのか。四二 それさえなければ、今は黙して伏し、憩いを得て眠りについていたであらうに。

◆三八章一〜二節、四二章一〜一〇節

三八 主は嵐の中からヨブに答えて仰せになつた。三九 これは何者か。知識もないのに、言葉を重ねて神の経綸を暗くするとは。四〇 男らしく、腰に帯をせよ。わたしはお前に尋ねる、わたしに答えてみよ。四一 わたしが大地を据えたとき、お前はどこにいたのか。知っていたというなら理解していることを言ってみよ。四二 誰がその広がりを選んだかを知っているのか。四三 誰がその上に測り縄を張つたのか。四四 基の柱はどこに沈められたのか。四五 誰が隅の親石を置いたのか。四六 そのとき、夜明けの星はこぞって喜び歌い、神の子らは皆、喜びの声をあげた。

四七 海は二つの扉を押し開いてほとぼしり、母の胎から溢れ出た。四八 わたしは密雲をその着物とし、濃霧をその産着としてまとわせた。四九 しかし、わたしはそれに限界を定め、二つの扉にかんぬきを付け、五〇 ここまで来ててもよいが越えてはならない。高ぶる波をここでどめよ」と命じた。五一 お前は一生に一度でも朝に命令し、曙に役割を指示したことがあるか。五二 ヨブは主に答えて言つた。五三 あなたは全能であり、御旨の成就を妨げることはできないと悟りました。五四 これは何者か。知識もな

いのに、神の経綸を隠そうとするとは。」そのとおりです。わたしには理解できず、わたしの知識を超えた驚くべき御業をあげつらつておりました。五五 「聞け、わたしが話す。お前に尋ねる、わたしに答えてみよ。」五六 あなたのことを、耳にしてはおりました。しかし今、この目であなたを仰ぎ見ます。五七 それゆえ、わたしは塵と灰の上に伏し、自分を退け、悔い改めます。

五八 「主はこのようにヨブに語つてから、テマン人エリファズに仰せになつた。五九 わたしはお前とお前の二人の友人に対して怒っている。六〇 お前たちは、わたしについてわたしの僕ヨブのように正しく語らなかつたからだ。六一 しかし今、雄牛と雄羊を七頭ずつわたしの僕ヨブのところに入れて行き、自分のためにいけにえをささげれば、わたしの僕ヨブはお前たちのために祈ってくれるであろう。六二 わたしはそれを受け入れる。六三 お前たちはわたしの僕ヨブのようにわたしについて正しく語らなかつたのだが、お前たちに罰を与えないことにしよう。」

六四 テマン人エリファズ、シユア人ビルダド、ナアマ人ツォファルは行って、主が言われたことを実行した。六五 そして、主はヨブの祈りを受け入れられた。六六 ヨブが友人たちのために祈つたとき、主はヨブを元の境遇に戻し、更に財産を二倍にされた。